

# 発達障害のある人と接する時は

発達障害は、障害の種類や程度、知的水準によって症状は違い、年齢や性格などによっても、一人ひとり、症状の現れ方は違います。また、同じ人でも、環境によっては症状が目立たなくなることもあります。

発達障害のうち、ASDは脳の情報処理システムに複数の機能障害があるといわれており、ライフステージを通して、社会的状況や集団生活上で多くの支援を必要とします。一般的に、視覚情報を把握することは得意ですが、聴覚情報（複雑な話しことばなど）を意味づけて理解することや目に見えない相手の気持ち、暗黙の了解や約束事、未経験のことなどを、想像力を駆使して想定し、対処することが苦手です。また、ものごとの細部に注意が向きやすく、全体像を把握することが苦手です。

発達障害のある人は、生活の中で困難なこと、苦手なことが一人ひとり違うため、どのような支援があると安心してすごせるのか、活動できるのかをご本人からよく聞きとって、それぞれの特性に応じて配慮し、支援することが重要です。

- コミュニケーションをとる際には、「ゆっくり」「短く」「具体的に」。
- 優先順位を明確に具体的に伝え、一度に二つの指示は出さない。
- 視覚的な情報を提示して説明する。
- 自分の気持ちや考えを表現することや相手にうまく伝えることが苦手なので、「早く」、「まだ？」など急かさず、じっくりと話を聞くことが大切。
- 行動の修正が必要なときには、否定的な表現（～してはいけません）よりも肯定的な表現（～をしましょう）で伝えるよう努める。
- 枠組みを明確にし、その場の約束事は初めにはっきりと伝える。
- 発達障害のある人は、急な変化に対応することが難しいので、前もってスケジュールや計画などを伝えておく。
- 発達障害のある人には、適度な距離を保って、穏やかな態度で接する。結果を急がず、長い目で支援する。
- 安心できる環境を整える。共感性をもって暖かく見守る。
- 対応が難しい時には、専門家に相談する。

## 自閉スペクトラム症／

### 自閉症スペクトラム障害(ASD)のある人への配慮

- 肯定的、具体的、視覚的な伝え方の工夫
  - ・何かを行うときには、必ずその意図や目的を伝える。
  - ・手順や方法を図や写真などを使って説明する。
- スモールステップによる支援
  - ・新しく挑戦する部分は少しずつにして、目標を達成できるようにする。

## 限局性学習症／限局性学習障害(LD)のある人への配慮

- 得意な部分を使って情報アクセスし、表現できるようにする(ICTの活用など)
- 苦手な部分について、課題の量・質を適切に加減し、柔軟な評価をする

## 注意欠如・多動症／注意欠如・多動性障害(ADHD)のある人への配慮

- 気の散りにくい座席の位置の工夫、分かりやすいルール提示などの配慮
- ストレスケア(傷つき体験への寄り添い、適応行動が出来たことへのこまめな評価)
- 集中力の欠如や衝動性には、専門医療機関での治療が有効

## その他の発達障害のある人への配慮

- 叱ったり拒否的な態度を取ったりするのではなく、日常的な行動の一つとして受け止めるなど、楽に過ごせる方法を一緒に考える



気になることがありましたら、お住まいの市町村の窓口や「発達障害者支援センター」にご相談ください。

発達障害がある場合、早めに障害に気づき、特性に合った対応をすることにより、さまざまな能力を伸ばし、安定して生活していくことができます。もし、「うちの子は発達障害なのだろうか」など、気になることがあるときは、お住まいの市町村の窓口や「発達障害者支援センター」にご相談ください。

発達障害者支援センターでは、発達障害のある人の日常生活についての相談支援などを行っているほか、医療、保健、福祉、教育、労働等の各関係機関と連携を図りながら、障害の特性とライフステージに合わせた支援を提供しています。

